印面デザイン

「遠野南部　鍋倉城」の筆文字に、城主であった遠野南部氏の家紋である「尚鶴紋」及び「九曜紋」を配置し、女殿様「清心尼公」の印を左下に押印する。

台紙には、遠野緑峰高校の生徒が、遠野の名産品であるホップを使って開発し、一枚一枚漉いた「ホップ和紙」を用いている。

＊向鶴紋

南部氏は、甲斐源氏の流れをくむ一族で、家紋は割菱や九曜文を使っていた。

室町時代（応永18年）、秋田の安東氏との戦いの際に、根城城主南部光経は２羽の鶴が舞い降り、９個の星が降ってくる縁起のいい夢をみた。そこから、胸に９個の星（九曜）を抱いた２羽の鶴を家紋とした「向鶴」を使うようになった。

印面デザイン

「根城」の文字は、根城南部家第三十六代南部日實氏の揮毫による史跡根城跡石碑（昭和 18 年建立）の文字を使用。

城主であった根城南部家の家紋「尚鶴紋」を用いた。使用した紋は、南部家所蔵文書に描かれた旗の紋で、根城本丸の展示物にも使用している。

題字以外の書　在家渓静

＊向鶴紋

南部氏は、甲斐源氏の流れをくむ一族で、家紋は割菱や九曜文を使っていた。

室町時代（応永18年）、秋田の安東氏との戦いの際に、根城城主南部光経は２羽の鶴が舞い降り、９個の星が降ってくる縁起のいい夢をみた。そこから、胸に９個の星（九曜）を抱いた２羽の鶴を家紋とした「向鶴」を使うようになった。

協力：八戸市教育委員会・根城史跡保存会・鰺ヶ沢町教育委員会・南部町教育委員会・南部利康雲屋保存管理委員会・三戸町教育委員会・久慈市教育委員会・九戸歴史民俗の会・（一社）久慈市観光物産協会・二戸市教育委員会・遠野市教育委員会

南部「御城印」プロジェクト

「南部お城めぐり」対象のお城

<販売場所・お問合せ先>

根　城（青森県八戸市）
- ＊史跡根城の広場　℡：0178-41-1726
- ＊八戸市博物館　℡：0178-44-8111

聖寿寺館（青森県南部町）
- ＊史跡聖寿寺館跡案内所　℡：0179-23-4711

三戸城（青森県三戸町）
- ＊三戸町立歴史民俗資料館　℡0179-22-2739

種里城（青森県鰺ヶ沢町）
- ＊光信公の館　℡：0173-79-2535

九戸城（岩手県二戸市）
- ＊二戸市埋蔵文化財センター　℡：0195-23-8020

久慈城（岩手県久慈市）
- ＊道の駅くじ　やまぜ土風館　℡：0194-66-9200

鍋倉城（岩手県遠野市）
- ＊遠野市立博物館　℡：0198-62-2340

＊各施設の休館日には「御城印」の販売はありません。

印面デザイン

弘前市在住の書道家 中堂佳音氏の書を、南部町出身のデザイナー上山保治氏がデザインし、聖寿寺館を築城したと考えられる十三代南部守行公の肖像画背後の旗指物に描かれた南部氏の家紋「尚鶴」をあしらっている。

＊向鶴紋

聖寿寺館跡中心区画で確認された、当時としては東北最大の掘立柱建物跡を構成する柱穴からは、向鶴銅製目貫金具（町指定文化財）が出土しており、少なくとも16世紀前半段階では既に南部氏が向鶴文を用いていたことが明らかとなっている。

印面デザイン

「三戸城」の文字は、盛岡南部家第四十六代南部利文氏が揮毫（落款印もご本人のもの）。

「御城印」は、南部家の定紋「向鶴紋」を使用。

＊向鶴紋

南部家の史書には、吉をもたらす鳥として二羽の鶴が度々登場し、この由来から南部家では「向鶴紋」を家紋に定めたと言われている。

円の中に翼を大きく広げた二羽の鶴が向かい合い、右の鶴は口を開け、左の鶴は口を閉じることから「阿吽」を表し、鶴の胸には九曜紋が付く。鶴の羽は、時代によって枚数が異なるが、三戸城の「御城印」で使用した紋は、南部家が二十万石に加増された以降に改められたもの。

＊割菱紋

「割菱紋」は、甲斐源氏である武田氏の系統と関係が深く、古い時代の南部家の紋とされている。紋の紫色については、かつて三戸の名産であった南部紫根を意識したもの。

印面デザイン

「久慈城」の文字は、市内の書家が揮毫。

久慈城が所在する地名として「南部久慈大川目」を表記した。

御城印の家紋は、「久慈菱」・「二重菱に五三桐」・「卍」を使用。

＊久慈氏と家紋

久慈氏の直系は「九戸一揆」により滅亡したが、市内の家紋研究者により、今回使用した「久慈菱」・「二重菱に五三桐」・「卍」の３つの家紋が使用されていたと考えられている。

久慈家は「久慈菱」紋を用いることが多いとされ、古文書には「二重菱に五三桐」・「卍」を用いたとの記載が見られる。

印面デザイン

「種里城」の文字は、昭和７年に建立された種里城址碑（蒿山松堂揮毫）の文字を元にしている。「津軽藩発祥之地」の題字は、昭和 51 年、始祖光信公四五〇年祭を記念し、津軽家第十四代義孝様が揮毫し落款したものである。

御城印には、城主光信公の家紋「蔓花菱」と、光信公を始祖と仰ぐ津軽家の家紋「杏葉牡丹」を用いた。

＊蔓花菱紋

弘前市の長勝寺（津軽家菩提寺）に伝わる光信公木像に付けられており、光信の家紋と推定されている。

＊杏葉牡丹紋

京都の関白近衛家の縁者（光信から三代目の大浦政信が近衛尚通の猶子）として使用が許された。近衛家の九枚葉に遠慮し、津軽家では七枚葉の牡丹紋を用いたという。

＊令和元年限定で「発行記念」スタンス、さらに十月八日限定で「光信公命日」のスタンスを押して発行します。

印面デザイン

「九戸城」の文字は、市内の書家によるもの。

御城印には、九戸氏の菩提寺である長興寺の寺紋及び九戸氏ゆかりの九戸神社の神紋である「九曜紋」を用いた。

＊九戸氏と九曜紋

現在、九戸氏の家紋として九曜紋が広く用いられているが、「参考諸家系図」によると、「九ノ内鶴」「割菱」とあるが詳細は不明である。

九曜紋は、中心に円を描き、その周囲に円を並べる「曜紋」で、中央のおおきな円のまわりに八つ小さな円を囲んだものである。